



営農NEWS



県内の晩生田でトビイロウンカ（秋ウンカ）による 水稻の坪枯れ症状が確認されました

県病害虫防除所 病害虫発生予報 11 月号によりますと、本年の 10 月中旬頃に、県南地域の加工用米作付け圃場で、トビイロウンカ（秋ウンカ）による坪枯れ症状の発生が確認されました。

トビイロウンカの被害発生は、例年、九州など西日本の地域を中心に問題になっていましたが、本年は被害発生が北上し、関東地方でも発生や被害が確認されており、本県でも数十年ぶりに被害が確認されました。

1 被害の特徴

飛来して大量に増殖したトビイロウンカが、イネの茎を吸汁加害することにより、数十株から数百株がまとまって円形状に枯死、倒伏します。九州地方などで被害が激しいときは、圃場の大部分が枯死して倒伏することもあるようです。

2 トビイロウンカの発生生態

トビイロウンカはヒメトビウンカよりやや大きめ（成虫では前者が 4.5～5mm、後者は 3.5～4mm）の体色が光沢のある暗褐色のウンカで、イネ属のみを餌とします。ヒメトビウンカと違い国内では越冬できず、日本における発生は海外から飛来した虫が定着し、数世代の増殖後に被害が生じます。例年は、常発地であるベトナムなどから中国大陸を経由して、6～7 月の梅雨時期に吹く強い下層ジェット気流に乗って海を渡り、九州地方を中心とした西日本に飛来します。飛来するトビイロウンカは比較的少ないのですが、その後の増殖率が極めて高いため、世代を重ねることで急激に増加します。多発生すると、秋にイネを吸汁して枯死させ、坪枯れの被害を生じることから、通称「秋ウンカ」と呼ばれています。なお、同じように大陸から例年飛来してくるウンカとしてセジロウンカがありますが、この被害は大量に飛来した場合に、早い世代で被害を出す場合があり「夏ウンカ」と呼称されています。このセジロウンカによる被害も、本県ではほとんど確認されていません。



県南地域の晩生水稲における被害状況

3 次作に向けて注意すること

近年では西日本の稲作で、被害の増加が問題となっています。本県でも、かつては被害の発生したこともあることから、本年と同じような 6～7 月の梅雨前線の動き、それに伴う下層ジェット気流の方向や強さによっては、これからも飛来や被害の発生する可能性が考えられます。

このため、出穂期から登熟期、収穫期にかけてイネの株元や茎を観察し、ウンカ等の生息確認に努めて下さい。特に、晩生品種の作付け圃場では、飛来してからの増殖期間が長くなるために、被害の発生する可能性があるかと予想されます。

なお、秋ウンカ等を確認した場合は、薬剤防除の実施を検討してください。薬剤散布の場合は液剤や粉剤を用い、生息場所を中心に、株元まで十分届くように丁寧に薬剤を散布してください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040